



なきごえ



1993

11



(撮影：永田 健一)

- 2 — New Face マレージャコウネコの赤ちゃん誕生
- 3 — 動物と私 生き物を飼うということ(長井三郎)
カバウォッチング ユリカモメ
- 4 — 長良川流域の哺乳類(田口五弘)
- 8 — グラフZOO オウサマペンギン誕生
- 10 — 公園花だより
- 11 — ZOO DIARY

カバウォッチング

ユリカモメ
チドリ目 カモメ科

Larus ridibundus

オホーツク海沿岸からアイスランドまで、広くアジア、ヨーロッパで繁殖しています。日本には冬鳥として飛来します。表紙の写真は冬羽で、夏は右の写真のように頭が黒くなります。

(撮影：榊原安昭)

||||| 動物と私 |||||

— 生き物を飼うということ —

約 6年間の都会の生活を終え、島に帰るとすぐ私は山羊を飼いました。自給自足の生活を夢見ていた私にとって、山羊はとっても重宝なものに思えたからです。身の回りに豊富にある草だけで賄えること、堆肥を取れること、栄養価の高い乳を搾れること、手ごろなサイズであること、そしていざとなれば肉として(たぶん自分で)処分出来ること……。

最初のうちは楽しく、まるでペット感覚で飼っていました。さもうまそうに草を食べる姿や、好奇心の強さ、その人なつっこさは実にほほえましく心地よいものでしたし、赤ちゃんが生まれたときなど、まるで自分の子どもが生まれたかのように、嬉しかったものです。

と ころが「数」が増えてくると(最終的には7頭になってしまいました)、しだいに友好関係にヒビが入ってきました。山羊たちは信じられないくらいよく食べるのです。毎日毎日大量の草を切るのが苦痛になってきました。ましてや「ひと月に35日雨が降る」といわれる島です。夏場はさておき、冷たい雨が降り続く秋や冬場はうんざりです。しかしそんなこちらの気持ちなども

マレージャコウネコの赤ちゃん誕生 ネコ目 ジャコウネコ科

8月23日にマレージャコウネコの赤ちゃんが生まれました。このメスにとっては初めての出産でしたが、たいへんじょうずに育てました。



長井三郎さん

(民宿「晴耕雨読」経営)

でおかまいなしに、山羊たちは神経を逆撫でするような声で鳴き叫ぶのです。ご主人様である私に対して、「べー！べー！」と凄い声で。だんだん腹が立ってきて、そのうちに、その声を聴くだけでももうすっかり頭にきてしまうようになってしまいました。最悪です。

何日も何日も雨が降り続いたある日、私はついに堪忍袋の緒が切れて山羊にあたり散らしてしまいました。「うるさい！俺はお前たちの家来ではない！」と。しかし、完全に頭にきながらも、それでも草を切りにいかなければならない我が身を嘆きながら独りで草を切っているとき、ふと気がついたのです。自分は「ご主人様ではない」ということに！その瞬間、私は気持ちがすーうっと楽になりました。嘘のように怒りが消えていったのです。コペルニクスの転回の瞬間でした。

山 羊を飼い始めた時から、僕は思い違いをしていたのです。自分が飼ってやっているのだから、当然自分のほうが「ご主人様」なのだ！そんなふうに思っていたからこそ、頭にきたり腹を立てたりしていたのです。しかし山羊を飼おうと思ったのは僕の勝手な都合ですし、恩恵を受けているのも僕の方です。閉じ込められた山羊にしてみれば、食事の要求や抗議のシュプレヒコールは当然の主張です。僕と山羊の関係は上下関係ではないのです。そんなことに気がついた時、たぶん僕は解放されたのだと思います。人間のおもいがりとか、傲慢さとか、そういった呪縛から。以後約8年間、共に過ごした山羊たちに、僕は今とても感謝しています。

(ながい さぶろう)

※ 編集部注：筆者は屋久島在住



長良川流域の哺乳類

田口五弘 (岐阜県哺乳動物調査研究会)

岐 阜県の知られざる一つを紹介し
ます。岐阜県に日本の「へそ」
があると自慢します。流動的ではあ
りませんが人口は長良川中流の美並村
に、位置関係の東西日本列島では揖
斐川中流の池田町に、南北日本列島
では揖斐川中流の本巣町などです。
へそではありませんが植物では南限
にミズバショウなど、北限に常緑照
葉樹林帯などがあります。昆虫のギ
フチョウは岐阜県以南に、ヒメギフ
チョウは長野県以北にと住み分けし
ています。この昆虫は食草であるカン
アオイとヒメカンアオイの生育条
件の差であることも知られています。

長 良川は岐阜県の中央に位置する
大日岳 (1709m) を源流とし県
を南北に貫流する 166 余 km、標高差
約 1,600 m の川です。日本の 100 km
以上の河川で本流にダムのないことを
現時点で日本一と誇っています (現
在、河口より約 5 km 地点に河口せき
が工事中です)。

この長良川の動物特に哺乳類につ
いてスポットを当ててみます。
便宜的に下流・中流及び上流の三
部に区分します。河口から岐阜市内
で伊自良川が合流する河渡橋までの
約 45 km、郡上八幡町までの約 100 km
及びこの地点より源流までとします。



長良川流域概念図

下流域の哺乳類—特に河川敷を中心とし て

市 街地・農耕地などの平坦地を流れる下流域
は、基礎部がコンクリートの頑丈な堤防が構
築され、さらに堤防を補強するブランケットも見
られます。堤防上面は2車線の舗装道路として利
用されています。

堤防と堤防の幅は場所によって異なりますが約
300~1,000mの川原が形成され、平常は約100~70
0m幅の水の流れがあります。

このことは川を横断して移動する動物は今日の
時点ではヌートリアを除き生息していません。

江戸中期の古文書によれば岐阜の金華山にはシ
カ・イノシシ・ノウサギなどが生息していたので、
金華山近くでこれらが川を渡っていたと記録され
ています。

今日河口より5km地点に長良川河口せきの工事
が進められていますので、数年先の完成後は水質・
湛水面高などに変化が表れ、河口せきの上流・下
流で動植物の生息・生育に影響が出ると考えられ
ます。

現在河口より16km地点付近まで汽水域であるの
で、シジミなどの二枚貝、ゴカイなどの環形動物、
エビ・カニなどの甲殻類、ボラなどの魚類が見ら
れます。また季節により川を上下移動するモクズ
ガニ・ウナギ・アユ・サツキマスなどが見られま
す。

左岸の河川敷について見ましょう。

河口より7km地点までは堤防間際まで湛水し、
アシ原となっているので陸生の動物は生息してい
ません。

13km地点に戸数10軒程の愛知県立田村福原輪中
があります。その輪中堤防の外側に大潮の満潮時
には水没する幅50m程の河川敷があり、一部普段
水没しない位置にメダケ・ヤナギなどが藪を、また
オギ・ヤブガラシなどが草原を造っています。40
数年前より生息・繁殖が確認されたヌートリア
が河川敷に出没しています。餌に油揚げ・ラッ
ト用固形飼料を付けたネズミ捕獲器 (以下捕獲器
の餌を省略) を数回かけた結果アカネズミ・ハツカ
ネズミの2種を捕獲しました。アカネズミは御岳
山 (標高3,067m) の中腹標高2,000mの森林帯でも
捕獲しましたので、野外に広く生息していること
が分かります。ハツカネズミは家ネズミの一種と
して家屋内に生息していますが、野外にも見られ
ます。岐阜県内で延べ100地点程でネズミ類170頭
程を捕獲していますが、ハツカネズミはこの地と
この上流16km地点の河川敷の2地点だけであるだけ
です。この長良川の西隣の揖斐川の源流地に1987
年4月に廃村になった徳山村があります。全家屋
が取り壊しになった1年後集落跡 (標高300m) で
家ネズミ捕獲を試みましたが、捕獲していません。

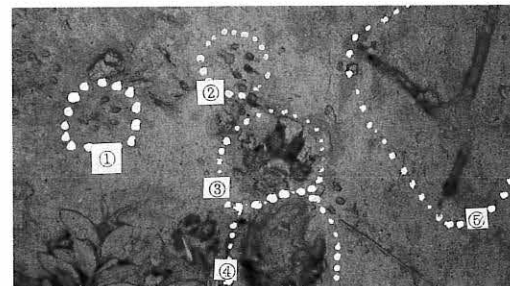
この河川敷は長良川が運んできた泥土から出来
ています。モグラ捕獲器をかけたが捕獲はでき
ませんでした。しかしモグラ塚・坑道がよく発
達していることからモグラの生息が推定され、モ
グラの地理的分布からコウベモグラと考えられま
す。輪中堤防で夕刻からコウモリが長良川を西へ

飛び去る姿を見る機会が多くあります。確定はで
きませんがアブラコウモリと考えられます。東隣
の木曾川の東、愛知県海部郡より飛び立ったので
しょうか。

この河川敷は年に数回長良川上流の豪雨で完全
に1・2日冠水する機会があるのに、ヌートリア・
ネズミ・モグラの生息が継続されている現実に、
種族生存の神秘性に感銘を受けます。この河川敷
は輪中堤防を隔て人家まで約500mありますが、
ネコが徘徊しているのを見えています。行動から推
察するとノラネコではなからうかと考えています。

16 km地点の河川敷は泥土の洪水堆積地で、川辺
にはアシ、陸地にスタケ・低木のヤナギ
などが疎林を造り、セイタカアワダチソウ・ヨモ
ギなどが草原を形成しています。この地は1mも
増水すれば全面的に冠水するので、年2・3回は水
没地になります。干潮時には一部が陸続きになる
大きさ100m×40mの砂州があります。キツネら
しき足跡を見ましたが確認はできていません。上
流24kmまでは木曾川との背割堤防となっているの
で人家もなく、交通量の少ない8mの堤防道路を
越せば木曾川の河川敷です。夜間イタチがこの堤
防道路を横切って移動しているのを3回は見てい
ます。ヌートリアが泳いでいるのを見ました。巢
穴は見出しませんでした。イタチの足跡を多くは
ないが確認しました。ネズミの捕獲ではアカネズ
ミとハツカネズミの2種でした。モグラのモグラ
塚・坑道を確認しました。コウモリは夏季4回の
観察では飛翔は確認できませんでした。

19 km地点の河川敷は泥砂の洪水堆積地で、川辺
のヤナギ・ハンノキの疎林は10mの樹高を
なしていますが、満潮時には1・2cmの冠水地にな
ります。ヌートリア・イタチの足跡を多く見るこ



川岸の動物足跡
① イタチ ③④ ヌートリア
⑤ 水鳥 (サギの一種)

とができます。約1mの段差をつけて乾燥した草
原状の河川敷に移ります。段差地帯にスタケ・
オオバノタ・ノイバラなどにクズ・ノブドウな
どがからみつき容易に段差が下りられない程夏は
茂っています。段差と堤防間に樹齢250年程のク
ロマツ林が形成され安定した植生帯といえます。
ネズミではアカネズミ・ヒメネズミの2種を捕獲
しました。ヒメネズミもアカネズミと同様生息分
布が広く、御岳山中腹の標高980mのスタケ地帯
でも捕獲した記録があります。モグラ塚・坑道も
多くあります。ニホンジカの右側で3段になった
角を水辺の陸地で地下20cmの泥砂内で拾いました。

相当摩滅してしまっていたので上流域の郡上郡周辺
のニホンジカ生息域から流されて来たものと推定さ
れます。人家から7km以上離れているのでノライ
ヌと思える白と茶の斑模様のイヌを見かけました。

21 km地点の河川敷は一部コンクリートブロッ
クで水辺と区切られていますが、泥砂の洪水
堆積地であり、40年程のソメイヨシノが植
栽されており、安定した植生を見せてくれます。
イタチの糞や足跡を見ました。イタチ・ノウサギ
が堤防道路を横切り木曾川の河川敷に移動したの
はこの地点です。イタチの地理的分布から考えて
チョウセンイタチと同定してもよいと思います。

25 km地点より上流の堤防外は人家や農地また
は排水機を備えた大規模の排水路がありま
す。河川敷にはコンクリート護岸により河川浚渫
によって出た泥砂を沈澱させたブランケットがあり
ます。

25~27km地点の河川敷は泥砂の洪水堆積地で、
牧場または牧草地として利用されています。この
地は余程の大洪水でなければ冠水は無い模様です。
川辺にクワ・カワヤナギ・セイタカアワダチソウ
などの植生が発達し、ヌートリア・イタチ・モグ
ラが生息しています。ヌートリアの巣穴を確認し
ました。

34.5 km地点に東海道新幹線の鉄橋があります。
この鉄橋を挟んで下流は洪水堆積による
河川敷で、牧草地と2m程の護岸の無い水辺があ
ります。水辺にはクワ・セイタカアワダチソウ・
ヨモギ・オギ・セイタカヨシなどが約3~5m幅で
混じりながら生育しているのが見られます。また
上流にはブランケットが造成され、水辺は2m程
のコンクリート護岸があります。牧草地と護岸上
帯間に幅3~5mにオギ・セイタカヨシ・セイタカ
アワダチソウが斑状に生育しています。この2地
点に同じ仲間のセイタカヨシが隣に生えているに
かかわらずオギの生育地のみにかヤネズミの巣及
び親と新生仔を確認しました。1993年の春から夏
にかけての冷夏及び数度の台風や集中豪雨でオギ
が数度地上10cm程1・2日浸水を蒙り、その度巣を
放棄したにもかかわらず9月中旬以降巣造りと出産
が見られました。カヤネズミの種族保持力に感激
しました。ネズミの捕獲でアカネズミとヒメネズ
ミの2種を確認しました。上流地点は造成が新し
いのかモグラの生息確認の証拠が見つかりませ
んでした。下流地点でイタチ・ヌートリアの足跡を
確認しました。またイタチが3m程のクワの木に
小鳥のアオジを噛み殺して残っていたのを見まし
た。この地で捨てられて間もない痩せた白毛のノ
ライヌを見えています。

右 岸の河川敷を観察してみよう。
河口から14km地点までの木曾三川公園の間
は揖斐川との背割堤防で、人家はありません。部
分的に泥土の河川敷は発達しています。しかし現
在浚渫によるブランケット造りが広範囲に行なわ
れていますので、ヌートリアの生息も確認できま
せん。また浅い水面はアシ原となりアサリ・水鳥
などの繁殖地になっています。有名な江戸幕府が
宝暦年間 (1753年) に薩摩藩に木曾三川改修工事
を命じ、困難な中で完成しました。これを記念し

た油島の千本松原も公園の続きにあります。公園は休日ともなれば車と人で大賑わいをしています。広くもない公園内に、ある時には4頭のノライヌが徘徊していました。

右岸は左岸に比し河川敷はコンクリートブロック護岸のプランケットが連続的に造成されています。また数艘の小舟からなる船溜りも数カ所護岸工事と共に造成されていますので、10年以上のマツ・ヤナギは生育していません。

16km地点で満潮時に10cm程水没するヤナギなどの生育している島状砂州に2頭のヌートリアを、粘土質の川辺でイタチ3頭以上の足跡を、ネズミの捕獲ではアカネズミとヒメネズミの2種を各々確認しました。モグラ塚や坑道も確認しました。

37km地点の堤防道路外部ですが、犀川河川敷で1992年秋にキツネを見たとの証言を得ました。

44km地点で合流する糸貫川の流域で捕獲した3頭のモグラはコウベモグラでありました。

中流域の哺乳類

45 km地点の河渡橋付近の川底は小石となっています。長良川のアユが秋に産卵する場所として知られ、近年産卵ウォッチングが行なわれることで有名になっています。

46km地点で右岸に流路約20kmの伊自良川が合流します。源流域でイノシシ・ホンドリス、下流域でもキツネ・タヌキなども確認されています。ヌートリアが川に添い源流地にある伊自良湖まで数年で移動したこと、またこの伊自良川に約15kmの支流がありますが、この源流地にもヌートリアは数年で移動したことなどが知られています。

金華山の麓までは人頭大の石混じりの自然河川敷か、花壇などを整備した河川敷公園かに別れます。さらに上流は自然河川敷の植生を変えながら自然度を高めていきます。

左岸50km地点の河川敷は径10cm程の川原石の自然地であります。遊歩道やオギ・セイタカアワダチソウがありますが、年数回容易に冠水します。オギにカヤネズミの巣を見付けましたが、台風時



カヤネズミ及びカヤネズミの巣 (写真: 大野 哲也)

に巣を放棄した後、2ヶ月後も巣が造られていません。親に何らかの事故があったのでしょうか。同一時期・場所でオギに小鳥のヨシキリが巣を造り、雛3羽を育てていたのを確認しています。1993年4月ノイヌ化した柴犬が仔4頭を出産し、育児していたのを確認したのはこのオギ原でありました。この地点の堤防上で夕刻コウモリ(アブラコウモリ?)を観察するとき、川を渡り西へ飛行

くのが多く、時に350頭をカウントしたことがあります。餌量の関係で市街地より農耕地の多い西方を選択したのでしょう。

右岸49km地点は対岸の左岸と同じような河川敷で、1993年9月新しい巣23個と、その内3個の巣に新生仔が入っているのを確認しました。幅3~5m、長さ300m程のオギ原に集中的とも考えられるような、巣造りと繁殖が見られたのは驚きの一言でした。

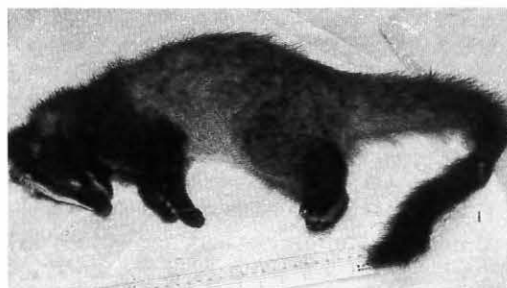
金 華山の麓は54kmですが、ここは鴨船による観光アユ漁が行なわれていることで知られています。金華山(標高329m)は江戸時代から伐採を禁じられるなどの保護の結果シイ・カシを主とする極相の常緑照葉樹林の山であることが知られています。今日では終戦後導入されたと考えられますタイワンリスが全山に分布し、観光客に愛されています。ホンドリスは15年前に一度確認された以後残念ながら確認されていません。ネズミの捕獲はアカネズミとヒメネズミの2種でありました。長良川流域である約4km離れた山足で2頭のコウベモグラを捕獲したので、金華山で確認したモグラ塚・坑道はコウベモグラのものと考えられます。



アライグマ (写真: 江崎 敏之)

右 岸で54km地点の岐阜市長良地区でオランダイチゴ・ブドウに被害を与えているのは、岐阜県可児市で自然繁殖が確認されたアライグマであることが、自動撮影カメラで写しだされました。同時に夜間でも交通量の多い県道に埋められている排水溝を利用して山際と河川敷を往来していることも分かりました。この排水溝をタヌキも同時に仲良く利用して、河川敷に出ているのも写真判定で分かりました。

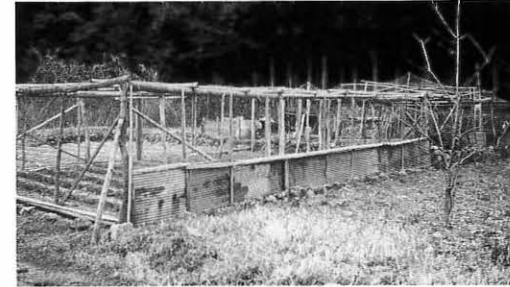
左岸にある岐阜市芥見の団地で、1960年代に岐阜県の恵那山(標高2,190m)麓地域から分布を拡大し始めたハクビシンが見つかりました。



交通事故のハクビシン

右岸に合流する武儀川があり、その中流域は奥山に続く里山が多い地域です。江戸末期イノシシの被害に悩まれた記録がありますが、現在でも時に話題になります。源流域山岳にはツキノワグマが生息しています。

美濃市の右岸で合流する板取川には、合流地域にニホンザルが河川敷に遊ぶ姿を見ることがあります。中流域にはハクビシン・タヌキ・ニホンザル・イノシシなどの農被害が報告され始めました。源流域山岳森林にはツキノワグマが生息しています。中流域で今日問題になっているのは、農被害を起こすニホンザル・イノシシです。



猿 捕 獲 お り

上流域の哺乳類

郡 上八幡町の東方に位置する山岳山林にニホンジカがいます。現在岐阜県内にはニホンジカの生息は3地域に局限され、その一つであります。上流域に夏生息していたイノシシは積雪と共に中流域で根雪約20cm以下の地域まで移動してきますから、根雪約30cm以上あるような地域には生息していないと考えられます。

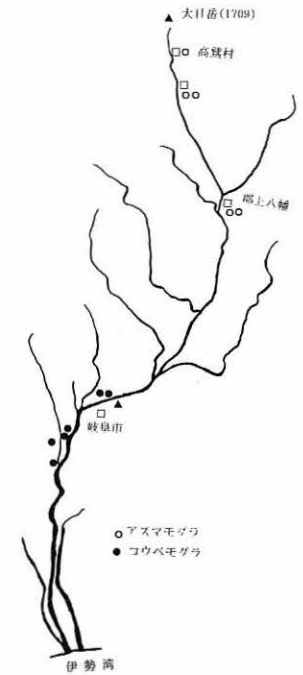
源流域の高鷲村(標高900m)でハクビシンの繁殖が確認されています。またホンドイタチが捕獲されました。山林と隣接している社寺林の多くにムササビが観察できます。国の天然記念物に指定され、さらに日本のデータブックで希少種に指定されているヤマネが源流域の高鷲村(標高900m)で確認されています。白鳥町(標高350m)及び高鷲村(標高520m)で捕獲されたモグラはアズマモグラでありました。

終わりに

岐 阜県内には7目19科55種の哺乳類が確認されています。その内長良川本流で確認されたのは18科36種であります。さらに調査が進めば



顔を見せたムササビ (写真: 江崎 敏之)



長良川流域モグラ類捕獲地点

確認種が増えることと思います。

生息上注目されるのは県内にあるとされている水平分布があります。ニッコウムササビとワカヤマムササビ、ホンドイタチとチョウセンイタチ、トウホクノウサギとキュウシュウノウサギ及びコウベモグラとアズマモグラをあげることができます。

また県内では生息時期の新しい帰化動物のハクビシン、アライグマ、ヌートリア及びタイワンリスは今後さらに分布範囲を拡大し、動物相に変化をもたらすと考えられます。

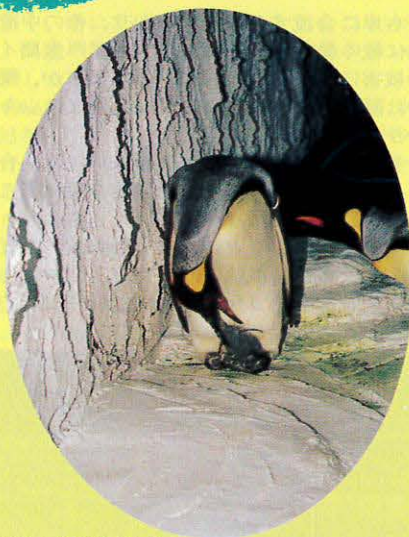
長良川本流域で確認された哺乳類一覧

目	種 名
モグラ目	ジネズミ・カワネズミ・ヒミズ・アズマモグラ・コウベモグラ
コウモリ目	コキクガシラコウモリ・キクガシラコウモリ・ヤマコウモリ・アブラコウモリ・モモジロコウモリ
サル目	ニホンザル
ネコ目	ホンドタヌキ・ホンドキツネ・ツキノワグマ・アライグマ・ホンドテン・チョウセンイタチ・ホンドイタチ・ニホンアナグマ・ハクビシン
ウシ目	ニホンイノシシ・ホンシュウジカ・ニホンカモシカ
ネズミ目	ニホンリス・タイワンリス・ニッコウムササビ・ヤマネ・アカネズミ・ヒメネズミ・カヤネズミ・ハツカネズミ・クマネズミ・ドブネズミ・ヌートリア
ウサギ目	トウホクノウサギ・キュウシュウノウサギ

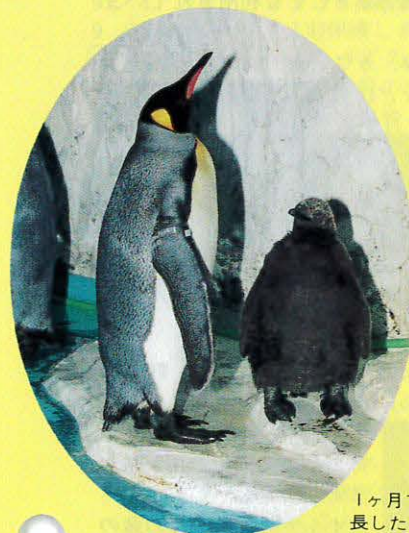
(たぐち いつひろ)



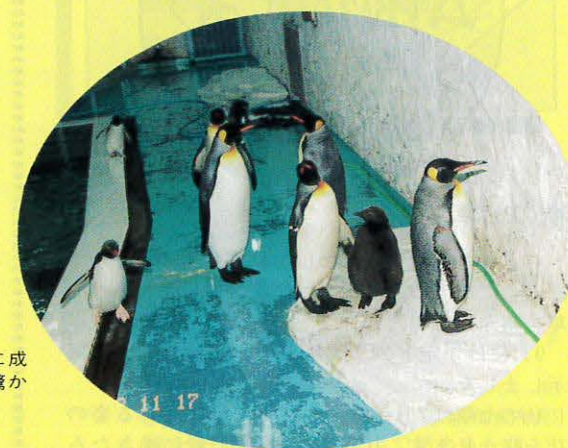
ヒナが卵のカラを割り、出てきました。(平成4年10月6日)



ふ化後2日目位から、親にエサをもらいます。ヒナが「お腹がすいた」と信号を送ると親は口を開き、その中にヒナが頭を突っこんでエサを食べます。(平成4年10月9日)



1ヶ月で親の半分位の大きさに成長したヒナ、成長の早さには驚かされます。(平成4年11月17日)



ふ化後1ヶ月をすぎ、もうペンギンファミリーのりっぱな一員です。(平成4年11月17日)

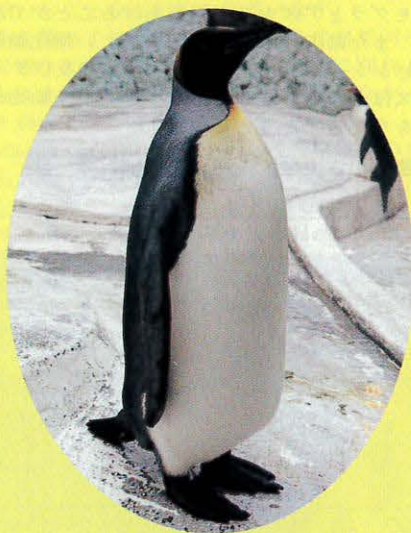


グライフZOO

オウサマペンギン誕生

コウテイペンギンの次に大きなオウサマペンギンが昨年の10月6日にふ化し無事に成長しました。今回はヒナのこの一年の成長記録を紹介しましょう。

(撮影：村田 行雄)
(構成：野口 秀高)



現在のヒナ、もう、親とほとんど区別が付きません。頭の後から、胸にかけての茶色い部分がわずかにうすいだけです。(平成5年10月18日)



(平成5年5月28日)

身体の下の方から徐々にぬけ換わり頭部が最後にかかります。8ヶ月位で親と同じようになりました。



(平成5年5月27日)



5ヶ月位からヒナの換羽が始まりました。身体の下の方からぬけ出し、親と同じ羽が見えてきました。(平成5年5月17日)

公園花だより

10

秋の七草

ちょっと時期が遅れましたが、今年の1月号では春の七草について述べましたので今回は秋の七草を紹介します。

9月には予定どおり秋の七草を植物温室前で展示しました。

秋の七草は7月から9月ごろまで個性ある姿の花を咲かせます。万葉集に、「秋の野に咲きたるを指折りかき数ふれば七草の花、萩の花、尾花、葛花、瞿麥の花、女郎花、また藤袴、朝貌の花」と、山上憶良が詠んだ歌があります。

それでは秋の七草をひとつひとつ紹介しましょう。

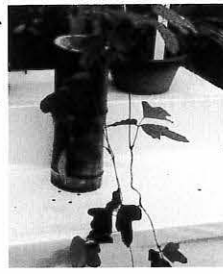
① ハギ、萩、マメ科。山野にはえる半低木で、よく庭木として愛されています。紅紫色の蝶形花を繖状花序につけ7月から9月にかけて咲きます。枝や幹は、すだれや萩戸として利用されています。増やし方は、株分け、さし木でできます。



② ススキ、尾花、イネ科。尾花とはススキの穂のことです。草原にはえる大形の多年草で、夏から秋にかけて長く長い穂を出し、風にゆれて秋を感じさせます。昔はかやぶき屋根の材料として茎葉を用い、牛や馬の飼料としても利用しました。増やし方は、株分けです。



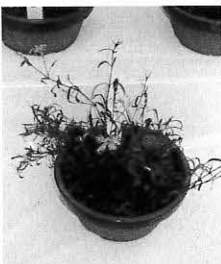
③ クズ、葛花、マメ科。つる性の多年草で、山野にいたるところに自生し、夏から秋にかけて紅紫色の花が咲きます。クズの根茎から採って精製したものが葛粉です。4月から5月にかけて若芽、若葉を摘みとって、かるくゆでて、あえものにして食べることができます。塩漬け、天ぷらにも



できます。根茎は漢方薬としても利用されています。

④ ナデシコ、瞿麥、カワラナデシコ、ナデシコ科。河原の荒地などに自生する多年草で、7月から9月ごろまで、淡紅色の花を涼しげに咲かせます。

お茶席の花としてもよく使われ、種子は漢方薬として用いられています。実生、さし芽、株分けでふやせます。



⑤ オミナエシ、女郎花、オミナエシ科。野原の日当たりのよいところに多く自生しています。多年草で、8月ごろから10月上旬ごろまで黄色の花が咲きます。



オミナエシの花はお盆の切花として用いられています。また根は漢方薬として使用されています。

実生、さし芽、株分けでふやします。

⑥ フジバカマ、藤袴、キク科。川べりの土手などに自生する多年草で、8月ごろから9月ごろまで淡紅紫色の花を咲かせます。花がそばみのうちに茎葉を刈り取って、干しただいて袋に入れ入浴剤として、匂袋として利用します。増やし方は、さし芽、株分けなどです。



⑦ キキョウ、桔梗、キキョウ科。山野の草原に生える多年草ですが、現在では園芸種が多く栽培されて市販されています。7月から9月ごろまで花を咲かせます。キキョウの根は干して薬用とします。



以上、秋の七草を紹介しましたが、七草には漢方薬、薬用として使用されており、秋の七草は薬用として、春の七草は食用として、どちらも健康を願っての山野草、山菜であるといえるでしょう。年中採取でき、また、どちらも鉢植えで栽培できますので楽しんで下さい。

天王寺公園、植物温室前で春、秋の七草を展示予定しておりますのでぜひご覧下さい。

(山元貞幸)

9 / 1. アオダイショウが1頭孵化しました。

9 / 4. キジバトを1羽保護しました。

9月5日 キーウィの“ブクマイ”が産卵しました。今回は2度目の産卵で、前回同様人工孵化を試みるため、孵卵器に入れま



した。キーウィはニュージーランドのみ生息している鳥で、日本では当園でのみ飼育しています。なお、今回、産卵した“ブクマイ”はオスの“キオト”とともに非公開の繁殖室で飼育していますので、ご覧いただくことはできません。

9 / 6. チュウゴクオオカミの雄が目やにを多くだしているの、麻酔をかけて検査をしました。

9 / 7. ブラックバックが1頭生まれました。

“鳥の楽園”で飼育しているシュバシコウのうち、オス1羽を秋田市の大森山動物園に贈りました。

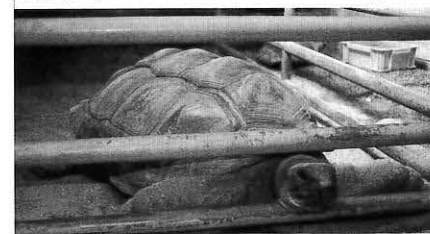
9 / 8. ムササビの赤ちゃんを2頭保護しました。

9 / 9. カルガモを1羽保護しました。

9 / 10. 8月31日に来園したソデグロヅルの検査が終わったので、ツル舎に展示しました。

9 / 11. パンの雛を1羽保護しました。

9月13日 この夏、日光浴のためカモシカ園で展示していたアルダブラゾウガメを爬虫



類舎に戻しました。体重測定をしたところ、101.7kgありました。

9 / 15. ベンガルトラが赤ちゃんを4頭産みました。前回は初産で落ち着きがなく、赤ちゃんは生まれて間もなく死んでしまいましたが、今回は4頭とも哺乳しているのを確認しました。

9月15日 敬老の日にな

み、当園の最長寿動物であるアジアゾウの“春子”にリンゴをプレゼントしました。“春子”は推定44歳で43年と5ヶ月飼育しています。



今月もおもしろ情報満載

ZOO DIARY



9 / 18. 「春の動物と花のフェスティバル'93」の一環として行った写真コンクールの審査会を動物写真家の内山農氏を招いて行いました。

9 / 19. 第100回動物園のおじさんのお話で、宮下実獣医が「動物の寿命の話」をしました。

9 / 21. アムールトラの赤ちゃんが2頭生まれました。

動物愛護週間の行事の一環として、(社)大阪動物愛護会の主催による無料動物相談を9月26日までの予定で始めました。

9 / 22. 8月23日に生まれたマレージャコウネコの赤ちゃんの頭数は3頭でした。

9月23日 (社)大阪動物愛護会主催の動物総合感謝祭が園内の動物慰霊碑前で行われまし



た。動物園の動物を代表してヒツジが献花しました。

9 / 24. 怪我や衰弱で保護されていたキジバトやゴイサギなどの鳥9羽が元気になったので、自然復帰させました。

9月26日 レッサーパンダを屋外展示場に出しました。レッサーパンダは暑さに弱いた



め、夏の間は冷房の効いた屋内展示室で展示していました。ひさしぶりに屋外に出た3頭のレッサーパンダは、元気よきのびのびと展示場を走りまわっていました。

☆お知らせ：●動物園のおじさんのお話
「今年生まれの赤ちゃんとお新着動物」
日時：11月21日(日) 午後1時～
場所：レクチャールーム

☆テレホンサービス：771-9999

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価680円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間は？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価680円

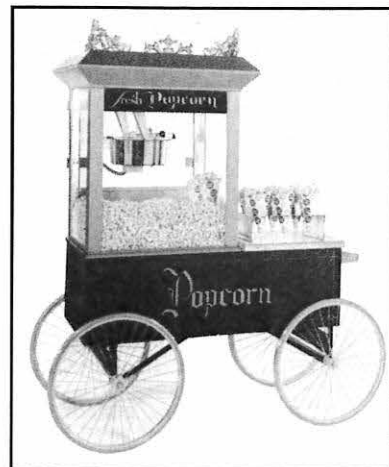
むしくらしか いかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきもの くらしか いかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



マスターのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30
TEL (06) 865-0165

オートフォーカスカメラに

フジカラー SUPER HIG 400



ピントが合いやすいフィルムです

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
阪急三番街店 ☎372-5031
OHVAC店
(ギャレ大阪) ☎346-7606

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

動物文学

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理する
とともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家
を紹介した本邦動物文学の母胎です。

〈研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載〉

会費/年1,500円 (切手72円・呈既刊号目次)

動物文学会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

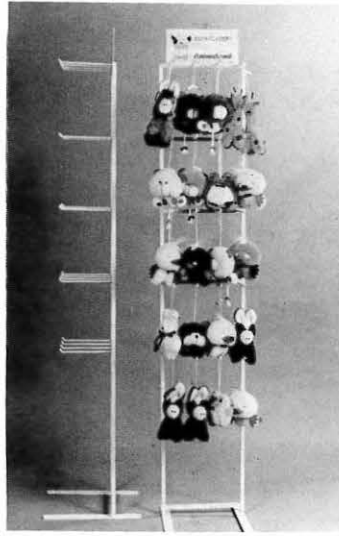


オールカラー

500円

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

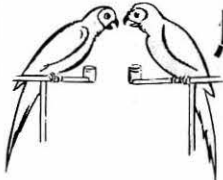


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

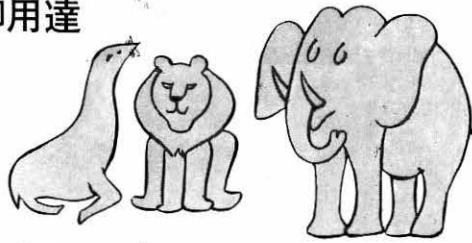
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話 (078) 221-8195(代)

たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、 ご休憩は



動物園内.....

中央売店

TEL 06-771-0973

お食事・飲み物・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL 06-771-7110



園内での写真は... 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願い致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444



Our yogurt has fruity
and rich texture!!

“生イキヨーグル”と
覚えてね。



ほりたてミルクのおいさが、生きている。

雪印
オガール

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



HUJIRI-KOJIMA

一日
愉快地
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ

1993年11月10日発行(毎月10日発行)第29巻 第11号(通巻339号)

編集/大阪市天王寺動植物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 3-37823

編集委員

(中山良三郎/岩倉善樹/中尾啓一/樽本 勲/中川哲男/吉本昌俊/山根和弘/谷森 進/宮下 実/長瀬健二郎/榎原安昭)
森本委利/竹田正人/永田健一/前田 茂/大野尊信/野口秀高/早川 篤/堀内智生/大川光雄/土谷正道/山元貞幸)